

# 新年



いつまでも安心して暮らしたいと

思えるまちづくりを

関市長 尾藤 義昭



輝かしい平成23年の新春にあたり、市民の皆様におかれましては、ご健勝にて清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また平素より、関市政の推進につきまして格別のご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ「第30回全国豊かな海づくり大会」を開催できましたことや、市制60周年・合併5周年記念式典をはじめ各種記念行事の開催を通して、市民の皆様とともに節目の年をお祝いすることができ、大変思い出深い年でありました。加えて、関市民の中から初めて人間国宝が認定されるなど、飛躍と発展の年として関市の歴史に新たな1ページを刻むことができ、新しい年を迎え改めて喜びを感じています。

私は、市民生活を根底から支える「安全・安心なまちづくり」に一貫して取り組んでおりますが、いかなる災

害にも対応でき、安心して子どもを生育てられる環境整備や医療・福祉体制の充実など、取り組むべき課題はまだまだ大きなものがあります。

また、市民生活の多様化と少子高齢化が進む中、快適で安心できる生活を営み、市民の皆様がこれからも住み続けたいと思えるまちづくりを進めるためには、良好な生活環境づくりなどに加え、健康増進、医療、市民活動などに関わる質の高いサービスを提供する必要があります。

そこで、わかきさ・プラザや市役所と中濃厚生病院との隣接地に「健康福祉交流施設」を整備し、新たな健康・福祉・医療に関わるサービスを提供し、市民の健康づくりを推進します。計画を進めるにあたっては、継続して市民の皆様からご意見をいただき、真にお役に立てる使いやすい施設をつくるために誠心誠意取り組み、より暮らしやすいまちにしていきたいと考え

ています。

また、平成24年に開催される「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」に向け、6競技の会場となる関市に、全国から大会に求められる選手や関係者の皆様を温かくお迎えできるよう、万全の準備を進めてまいります。「全国豊かな海づくり大会」を成功させた結束力を礎に、全市を挙げた機運の盛り上がりに向け、全力を尽くすとともに力を合わせて取り組んでいきたいと考えます。

今後とも、市民との、そして市民同士の絆の深い、夢のあるまちづくりに邁進いたしますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

新しい年が皆様、そして関市にとって明るく、実り多い年になりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

市長新年あいさつ番組のお知らせ

1月1日(土・祝) 10:03～ CBCラジオ、11:55～ 岐阜エフエムラジオ、15:00～ 岐阜テレビ

# 謹賀



## 希望あふれる郷土の実現を

関市議会議長 石原 教雅



新年明けましておめでとうございます。

平成23年の新春を迎えられましたこと、関市議会を代表し、心よりお慶びを申し上げます。

昨今の経済情勢においては、平成20年のリーマンショックの影響により、依然として世界的に不透明な状況が続いています。国内においては、「緩やかに安定しつつある」とも言われておりますが、デフレの域を脱しておらず金融や雇用を始めまだまだ厳しいものがあります。

関市の企業も、得手とする「ものづくり」の技術を發揮され、明るく幸多い年となりますよう願うものであります。

昨年は、「第30回全国豊かな海づくり大会」の開催により、水と緑豊かな関市を全国に向けて情報発信し、文化の薫り高き関市をアピールする最高の機会となりました。これを契機に、放流会場となった小瀬・池尻地区周辺

の市有林を「魚つき保安林」に指定しました。これは、川に流れ込む水の汚濁を防いだり、養分豊かな水を供給する森林の働きによって魚の生息、繁殖を維持するために環境を保全するものです。

また、市制施行60周年、合併5周年という節目の年でもあり、さらなる関市の発展と、一体感の醸成に向けた市政を進めていく必要を感じたところであります。市街地の活性化に資する重要な都市計画道路西本郷一ツ山線は、安桜小学校北までの間を第一工区として完成しました。この道路は県道富加美濃線からテクノハイランド、市役所、わかきトンネルを通り、中心市街地を南北に貫く幹線道路です。また、一昨年に関見インターチェンジが供用開始された東海環状自動車道は、東海北陸自動車道との相互作用により人や物の交流が活発になってきました。こうしたインフラ整備については、早期の全線開通が待

たれます。

現在の地方自治の運営は、大きな変革の動きがあります。国による「地域主権、地方制度改革」の考えのもと、国と地方の役割分担の見直しや、地方への権限移譲、税財源の拡充と共に、地方公共団体の基本構造について議論されています。地方自治体の自己決定・自己責任の範囲が拡大すれば、現在の二元代表制の一翼である議会の役割はより一層の重要性を増すこととなります。市民の負託に応え、議会としてのチェック機能を十分に發揮することだけでなく、地域の実情に合わせて自らの判断で権能を行使できる強い議会、市民に開かれた議会を目指すことが必要です。

全市民の皆さんと共に、郷土関市の素晴らしい自然を生かし、交流を深め、希望あふれるまちづくりを一緒に進めて行けることをお祈りし、新年のごあいさついたします。